（様式１－１）

① 申請者	和歌山県（和歌山市・海南市）	② タイプ	地域型　シリアル型 A　B　C　D　E

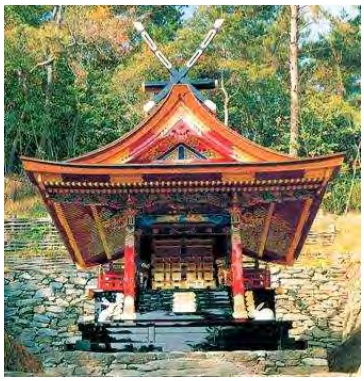
③ タイトル

絶景の宝庫　和歌の浦

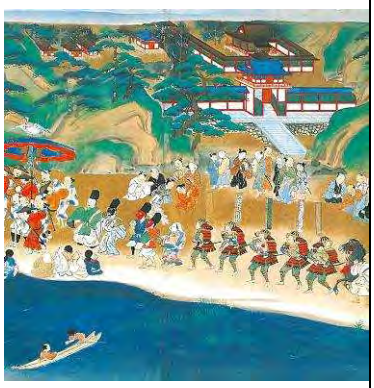
④ ストーリーの概要（２００字程度）

潮が引けば干潟が現れ刻一刻と輝きながら変化し、潮が満ちれば一面の海となり、陽光をうけて古い石橋が影を落とす。入り江を取り巻く山の桜が寺社を彩り、潮入りの庭園を新緑が包み、紅葉の峠越しにみる入り江は碧く、風景にとけこんだ町並みに色鮮やかな祭礼行列が練り歩く。ここ和歌の浦の情景は一時として同じではない。このまま持ち帰りたいと万葉歌人は和歌にうたい、和歌の神様がこの地に宿った。そして数多くの文化芸術を育んできた歴史の厚みを湛え、和歌の浦は今も人々を魅了している。

1300 年前に和歌にうたわれた和歌の浦の干潟



和歌の神・玉津島神社

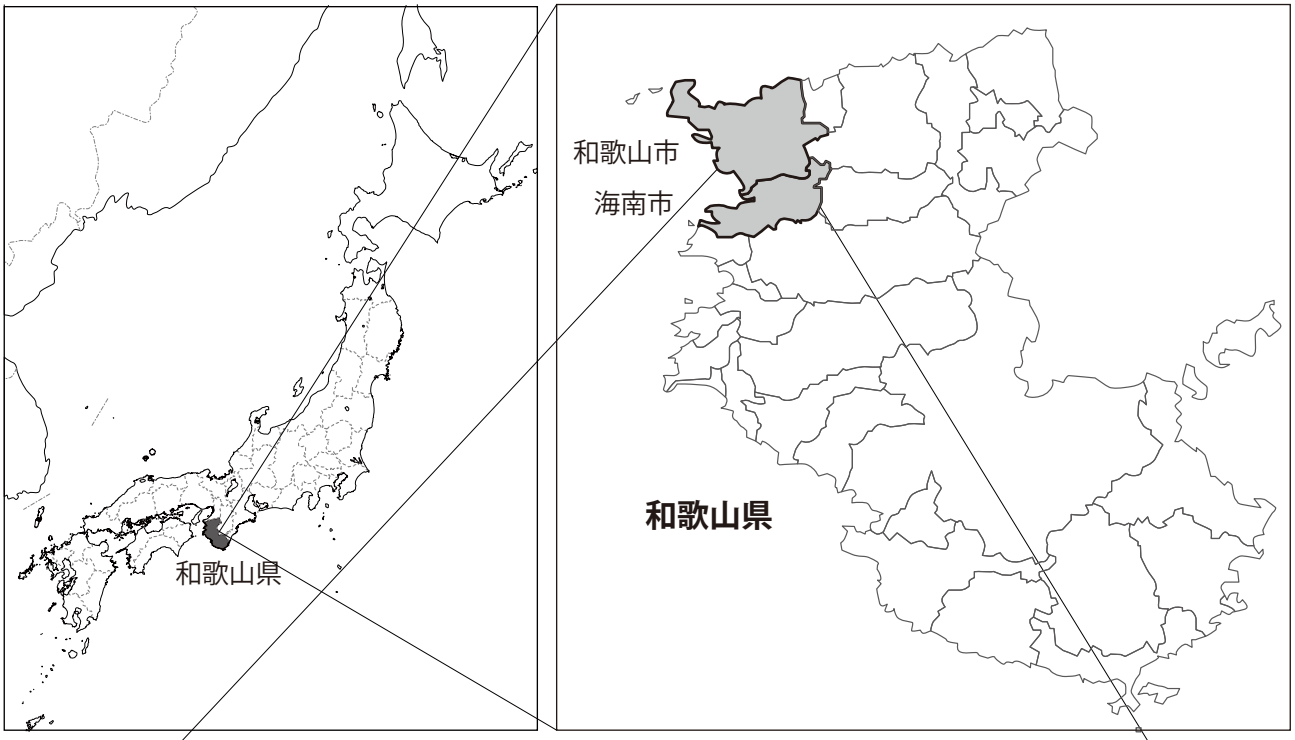


自然と文化が調和した和歌の浦

（東照宮縁起絵巻より和歌祭図）

（様式１－２）

市町村の位置図



構成文化財の位置図

詳細図は次頁

（様式１－２）

構成文化財の位置図（詳細）

（様式２）

ストーリー

１．芸術を育んだ絶景　和歌の浦

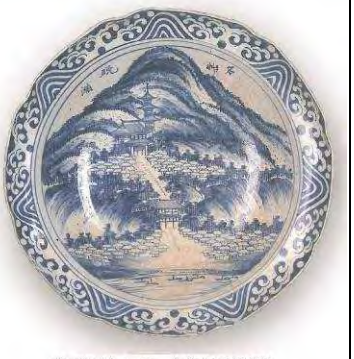
和歌の浦は、和歌川の河口に広がる干潟を中心に、南は熊野古道の藤白坂から、西は紀伊水道に面する雑賀崎までの、和歌浦湾を取り巻く景勝の地である。万葉の時代にこの思わず持ち帰りたいほどの情景が和歌にうたわれ、和歌の神がまつられ、唯一無二の和歌の聖地となった。その情景が和歌と絵画に融合した和歌浦十景は、潮が満ち干潟から鳥が飛び立つ様、春霞の干潟越しにみる寺社を抱く山並み、紅葉の峠越しに見下ろす波穏やかな入り江など、うたわれ絵になってきた絶景を、今も訪れる人々に教えてくれる。自然と文化が調和した和歌の浦の絶景は、日本人の精神文化の源ともいえる和歌に始まり、いつの時代も人々を魅了し、様々な芸術を育んできた。

和歌の浦（満潮の干潟と観海閣）

和歌の浦（朝焼けの名草山）

２．和歌の聖地　和歌の浦の誕生

1300 年前の奈良時代、**聖武天皇**は、即位の年という特別な機会に、当時「若の浦」と記されたこの地を訪れた。遠くに名草山を望み、目の前で刻々と変化する干潟の広がりと、そのなかで沖に向かって連なる玉津島山のながめに感動し、この地の神・明光浦霊に祈りをささげ、そしてこの景色を末永く守るよう命じた。歌聖・**山辺赤人**の**「若の浦に潮満ちくれば潟を無み　葦辺を指して鶴鳴き渡る」**（若の浦に潮が満ちて干潟が見えなくなり、干潟にいた鶴が一斉に飛び立ち、葦のはえる岸辺へ鳴きながら飛んでいく）という、躍動感あふれる情景を見事に描きだした歌が、その時の天皇の感動を表している。


和歌浦十景（名草晩潮）

この歌が平安時代、**紀貫之**により和歌の聖典といわれる**『古今和歌集』**で改めて取り上げられたことが、「若の浦」が和歌の聖地となる第一歩であった。「若」の浦が転じて「和歌」の浦となり、美しさが衣を通して輝いたという和歌の名人・**衣通姫**が和歌の神として**玉津島**にまつられ、和歌の聖地として崇められたのである。古代から中世にかけて、時の関白・大臣までもが、熊野参詣や西国巡礼の道すがら、名高い和歌の浦を観光し、また和歌や物語など様々な文芸作品に取りあげていった。

万葉の歌聖・山辺赤人

この和歌の浦に象徴された和歌の世界は、玉津島の神をまつり、六義園のような和歌の浦を模した庭園を造ることで、京や江戸にも広がっていった。文化人たちは和歌の浦にあこがれ続けてきたのである。

３．天下人や藩主もほれこんだ、和歌の浦の絶景

中世末、**豊臣秀吉**は、紀州攻めの際に古来の景勝・和歌の浦を遊覧し、その名にちなんで北方の岡山に建てた城を**和歌山城**とし、その城下が和

妹背山にかけられた三断橋

歌山とよばれるようになった。こうして「和歌」の名は、現在の県名にまで引きつがれ、和歌山の誇りとなっている。

400 年前の江戸時代、**徳川家康**の十男**頼宣**が和歌山へ入国すると、和歌の浦の北西にそびえる権現山に父家康をまつる**東照宮**を、干潟に浮かぶ妹背山に母お万の方をしのぶ**多宝塔**を建てた。そして妹背山に**三断橋**をかけて**観海閣**を設け、干潟の移ろいを楽しむ場として民衆に開放した。また東の対岸、紀三井寺からの渡し舟で、西国巡礼の旅人を和歌の浦へと誘った。頼宣が始めた紀州東照宮の例大祭・**和歌祭**では、和歌の浦を背景に渡御行列が練り歩き、民衆も楽しんだ。名所に民衆が自由に集い楽しむ場が設けられたのは、和歌の浦が始まりである。

また和歌の浦の景勝をいかして、優れた庭園が造られた。紀州藩主随一の文化人・10 代藩主**徳川治宝**が、西の高津子山を借景として造園した**養翠園**は、江戸の浜離宮と同じく珍しい潮入りの大名庭園である。園内には茶室を設け、和歌の浦をかたどった菓子や茶器もつくられた。南東の**琴ノ浦**では、近代になって**温山荘庭園**が築かれた。和歌の浦を見下ろす船尾山を借景とした池泉回遊式の庭園には、皇族や大臣も訪れ、関西を代表する名園となっている。

４．和歌浦十景にみる、うたわれ絵になる絶景

和歌浦十景は、干潟と玉津島を中心として、様々な方向からうたわれ絵になってきた和歌の浦の風景の広がりを教えてくれる。

南の**藤白坂**を登れば、北には万葉集にうたわれた黒牛潟、和歌の浦、雑賀崎から、はるか淡路島・四国まで変化に富んだ絶景が広がる。万葉の時代にここで処刑された悲劇の皇子・**有間皇子**が最後に見たのは、紅葉に彩られた峠越しの和歌の浦の海であった。そして熊野参詣の貴族たちが、都から山道が続く紀伊路で初めて海を望める所として、和歌の浦をながめながら歌会や舞楽を催した。

干潟の東、夕陽をあびて満潮の水面に映える名草山の中腹には、西国三十三所巡礼の第二番札所・**紀三井寺**がある。かつて俳聖・**松尾芭蕉**は過ぎゆく春の名残を求めて和歌の浦を訪れた。春、この境内には桜が咲き誇り、西をながめれば春霞の干潟に玉津島の岩山が並ぶ。

和歌の浦一円の鎮守であり、文芸の神をまつる**和歌浦天満宮**が鎮座する天神山は、和歌の浦の北西、入り江の最も奥にそびえている。色彩豊かな社越しに入り江を見下ろせば、緑濃い松林と石橋の間に釣り舟が見えかくれし、風景の一部のような人々の営みが目に映る。

和歌にうたわれ、和歌の文化を育み、芸術の源泉となった和歌の浦。この地は、うたわれ絵になる絶景の宝庫として人々を魅了し続けている。

関西の日光といわれる紀州東照宮

今にうけつがれる和歌祭（面掛行列）

養翠園の潮入りの池と高津子山

熊野古道の藤白の獅子舞

西国巡礼の桜の名所・紀三井寺

天神山に鎮座する和歌浦天満宮

（様式３－１）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	芸術を育んだ絶景　和歌の浦			
1-1	和歌の浦 （干潟）	国名勝	【和歌浦十景「蘆州鳴鶴」】 和歌川の河口に立地する海浜の景勝地。奈良時代に聖武天皇がその景観を讃えて末永く守るよう命じ、江戸時代にも紀州藩初代藩主徳川頼宣が、景観を守るよう命じた。干潟の芦辺に鶴が飛ぶ様は、和歌浦十景の一つである。	和歌山市
1-2	和歌の浦 （片男波）	国名勝	【和歌浦十景「松汀積雪」】 和歌の浦の干潟を外海と隔てる砂州は、山辺赤人の和歌にちなみ、片男波とよばれる。片男波の砂州の松林に雪が積もる様は、和歌浦十景の一つとなった。	和歌山市
1-3	和歌浦図関係資料 （和歌浦図屏風等 10 点）	県美術未指定	和歌の浦は、日本三景と並ぶ名所として、数多くの名所図の画題となった。	和歌山市
1-4	和歌浦十景関係資料 （明光浦十景図）	未指定	和歌の浦の名所十景を描いた画。江戸時代の和歌の浦出身の絵師・桑山玉洲が、和歌の浦の実際の風景と、万葉集や新古今和歌集でうたわれた情景を見事に融合させて描いた構図は、後に多くの絵画や美術工芸品に写された。	和歌山市
1-5	南紀男山焼 （和歌の浦関係４点）	未指定	江戸時代後期に殖産興業として奨励された焼き物。紀州の名所として和歌の浦の景色を描いた器が数多く作られ、各地に配られた。	和歌山市
1-6	駿河屋菓子木型 「和歌の浦」 「紀八景」	未指定	駿河屋は室町時代から現在まで続く菓子司で、徳川頼宣とともに紀州に移り御用達となった。文雅を好んだ紀州藩 10 代藩主徳川治宝は和歌の浦の名所を表した菓子を作らせた。	和歌山市
1-7	紀伊国名所図会 板木	市美術	江戸時代後期の地誌書。特に和歌の浦には多くの頁数をさき、江戸時代の紀州で代表的な名所であったことを示す。	和歌山市

（様式３－１）

2	**和歌の聖地　和歌の浦の誕生**			
2-1	和歌の浦 （玉津島神社）	国名勝	【和歌浦十景「玉津春暁」】① 奈良時代、聖武天皇は和歌浦行幸し、玉津島と干潟のながめに感動してこの景観を守るよう詔を発した。玉津島は和歌の聖地として崇められたが、定まった社殿はなく、玉津島の岩山そのものがまつられた。関ヶ原の戦後に入国した浅野幸長により社殿が再興され、徳川頼宣により本格的に整備された。	和歌山市
2-2	玉津島神社 三十六歌仙額	市美術	徳川頼宣が、和歌の祭神にちなみ三十六歌仙額を奉納した。近世初期に、和歌の浦の天満宮・玉津島神社・東照宮の三社にそれぞれ奉納された三十六歌仙額は、紀州の文化芸術を語る上で重要な要素となっている。	和歌山市
2-3	玉津島神社 奉納和歌	市文書	玉津島神社の祭神・衣通姫は上代の絶世の美女で和歌の名人として知られ、住吉明神、天満天神（江戸時代には柿本人麻呂）と並び和歌三神の一柱とされた。京の公家や歴代の藩主から多くの奉納和歌がある。	和歌山市
2-4	和歌の浦 （塩竈神社）	国名勝	【和歌浦十景「輿窟波華」】 玉津島山の一つ鏡山で、加羅岩とよばれた奇岩の岩山に波が打ち寄せる様は、和歌浦十景の一つ。波で削られた洞窟に、浜降り神事で紀ノ川上流から渡った神輿がおかれたため、輿の窟といわれ、潮の満ち干を司る神をまつる。	和歌山市
3	**天下人や藩主もほれこんだ、和歌の浦の絶景**			
3-1	紀州東照宮	国重建造物	徳川頼宣が、父家康をまつる社として、地主神でもある天満宮の隣に造営した。天神山に天満宮、権現山に東照宮が並び建つ様は、和歌の浦の代表的な景観の一つ。	和歌山市
3-2	和歌祭・ 和歌祭祭礼所用具・ 和歌祭仮面群 面掛行列所用品	未指定 県美術	紀州東照宮の例大祭で、東照宮創建時から伝わる渡御行列は、江戸時代の芸能風俗を今に伝える時代絵巻である。万葉の山辺赤人の和歌にちなみ、和歌の浦を象徴する要素である鶴の意匠が随所にみられる。	和歌山市

（様式３－１）

3-3	和歌の浦 （妹背山・ 海禅院多宝塔）	国名勝 市建造物	【和歌浦十景「玉津春暁」】② 玉津島の６つの岩山の先頭にある妹背山には、徳川頼宣の母養珠院（お万の方）が家康33 回忌に経石を埋納した。徳川頼宣はその上に多宝塔を建て、また三断橋と観海閣を設け民衆に開放した。観海閣は、干潟に張り出した懸造りの建物で、干潟の移ろいを楽しむことができる。名草山から西に春霞の干潟を望み、玉津島の岩山が並ぶ様は、和歌浦十景の一つ。	和歌山市
3-4	和歌の浦 （三断橋）	国名勝	徳川頼宣が、干潟に浮かぶ妹背山に自由に渡ることができるよう設置した。中国の西湖堤に倣い、石堤の３か所に石造橋を設ける。水辺の名所として多くの地誌・紀行文などに描かれた。	和歌山市
3-5	和歌の浦 （不老橋）	国名勝 市建造物	江戸時代後期、徳川治宝は和歌祭の御成道として鏡山から片男波に向けて入り江の入口に不老橋をかけ整備した。入り江はその名残として市町川となっている。	和歌山市
3-6	養翠園	国名勝	江戸時代後期、徳川治宝が造営した和歌の浦の景観をいかした池泉回遊式の大名庭園。和歌の浦の高津子山を借景とし、中国の西湖を模したという潮入の池が特徴である。	和歌山市
3-7	琴ノ浦温山荘 ・琴ノ浦温山荘 庭園	国重建造物 国名勝	【和歌浦十景「琴浦戯鴎」】 大正初期、大阪の実業家・新田長次郎により築かれた関西随一の大庭園。琴ノ浦と船尾山の景色をいかした池泉回遊式の庭と、海を望む浜座敷が特色である。	海南市
3-8	和歌山城	国史跡 国重建造物 国名勝	中世末、豊臣秀吉が、和歌の浦の北方の岡山に築いた城を、和歌の浦の名にちなんで名付けた。江戸時代は紀州徳川家の居城であった。	和歌山市
3-9	長保寺 ・長保寺の林叢	国宝建造物 県天然記念物	江戸時代初め、徳川頼宣により紀州徳川家の菩提寺とされた。古の風情を残す壮大な森に抱かれ、境内と参道は桜 400 本と牡丹1200 本の花の名所である。	海南市
3-10	和歌山藩主 徳川家墓所	国史跡	長保寺にある紀州徳川家代々の墓所。境内からつづく深い森の奥に、石造りの荘厳な墓が立ち並ぶ。	海南市

（様式３－１）

4	和歌浦十景にみる、うたわれ絵になる絶景			
4-1	熊野参詣道紀伊路 （藤白坂）	国史跡	【和歌浦十景「藤白落葉」】① 晩秋の藤白坂から、紅葉の峠並み越しに見る和歌の浦の景色は、和歌浦十景の一つ。	海南市
4-2	熊野参詣道紀伊路 （藤白王子跡） ・藤白神社 ・藤白の獅子舞	国史跡 県建造物 県無形民俗	【和歌浦十景「藤白落葉」】② 藤白坂の麓の藤白神社は、熊野古道の九十九王子でも別格の五体王子の一つ藤白王子跡に建つ。都から山道が続く紀伊路で初めて海を望める所であり、熊野参詣の貴族たちが和歌の浦をながめながら歌会や舞楽を催した。その時に披露された神楽が起源という優美な獅子舞が伝わる。	海南市
4-3	熊野参詣道紀伊路 （藤代塔下王子跡） ・地蔵峰寺	国史跡 国重建造物	【和歌浦十景「藤白落葉」】③ 熊野古道の塔下王子跡に建つ、本尊が大きな石造りの地蔵菩薩の寺。藤白坂の上にあり、寺の裏の「御所の芝」は江戸時代の人々が和歌の浦を望む地として絶賛した。	海南市
4-4	黒江の町並み	未指定 国登録	万葉集に黒牛潟とうたわれた入り江に、近世に漆器職人の町が築かれた。和歌の浦の船尾山に抱かれるように、平行四辺形の土地に連子格子の町屋が斜めに建ち並び、独特な町並みをなす。地名の元となった黒い牛のような岩があったという中言神社では名水が湧く。	海南市
4-5	護国院 （紀三井寺）	国重建造物 県建造物	【和歌浦十景「名草晩潮」】 和歌浦湾の東にそびえる名草山の中腹にある西国三十三所の二番札所で、和歌の浦をながめる絶好の場所として多くの参詣者が訪れた。満潮時に夕陽に映える名草山は、和歌浦十景の一つである。	和歌山市
4-6	鷹の巣	県天然記念物	【和歌浦十景「雑賀漁火」】① 鷹が巣を作るような断崖絶壁であるため「鷹の巣」とよばれ、荒々しい結晶片岩が露頭する絶景となっている。雑賀崎の断崖と漁師の漁の景色は和歌浦十景に数えられる。	和歌山市

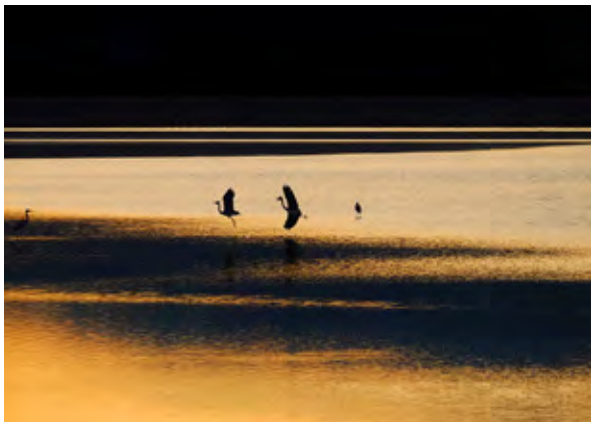
（様式３－１）

4-7	雑賀崎の町並み	未指定	【和歌浦十景「雑賀漁火」】② 万葉集に雑賀の海人の漁火とうたわれた地では、断崖に張り付くように建つ町並みに漁師町の風情を見ることができ、潮が変化する旧正月を節目とする漁民の風習が残る。	和歌山市
4-8	水軒堤防	県史跡	【和歌浦十景「吹上淡月」】 吹上の砂丘は、現在では市街地の下に埋もれてしまったが、江戸時代後期に築かれた海浜の石造堤防である水軒堤防が南北にのびる様子に、かつての海岸砂丘の面影を見ることができる。	和歌山市
4-9	和歌浦天満神社 (和歌浦天満宮)	国重建造物	【和歌浦十景「松間釣舟」】 入り江の最奥の天神山に鎮座する、和歌浦一円の地主神をまつる社で、浅野幸長が再興した。天神山から干潟を見下ろし松林の間に釣舟が見えかくれする様は、和歌浦十景に数えられる。	和歌山市
4-10	明光通りの町並み	未指定 国登録	江戸時代から東照宮・天満宮の参道前に和歌の浦の廻船問屋などが軒を連ね、聖武天皇が和歌浦行幸の際にこの地を明光浦とよんだ歴史にちなみ名付けられた。	和歌山市

（様式３－２）

構成文化財の写真一覧 ①

1-1　和歌の浦の夜明け（名草山、船尾山、藤白峠）



1-1　干潟から飛び立つ鳥

1-2　和歌の浦夕景（満潮の干潟、片男波、高津子山）

1-2　早朝の干潟と水鳥（奥に片男波の松林）

1-3　和歌浦図 「厳島和歌浦図屏風」

1-4　和歌浦十景【参考】
「明光浦十覧冊」玉津春暁（桑山玉洲筆）

1-3　和歌浦図 「東照宮縁起絵巻　第五巻」（住吉如慶筆）

1-4　和歌浦十景
「明光浦十景図」玉津春暁（岡本緑邨筆）

（様式３－２）

構成文化財の写真一覧 ②

1-4 和歌浦十景「玉津春暁」の景色

1-5 南紀男山焼「玉津春暁」

1-5 南紀男山焼「紀三井寺」（名草晩潮）

1-6 駿河屋菓子木型「和歌の浦」

1-6 駿河屋落雁「和歌の浦」（妹背山・観海閣・多宝塔・三断橋）

1-7 紀伊国名所図会

1-7 紀伊国名所図会（紀三井寺より和歌の浦の干潟・片男波・玉津島を望む）

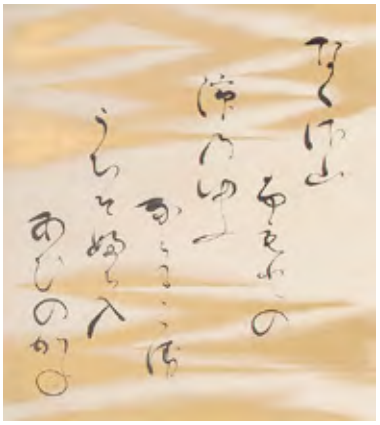
※『和歌浦の風景-カラーでよむ「紀伊国名所図会」-』（ニュース和歌山発行、額田雅裕解説、芝田浩子彩色）より

2-1 玉津島神社 本殿

2-2 玉津島神社 三十六歌仙額「山辺赤人」「小野小町」（狩野興甫筆）

（様式３－２）

構成文化財の写真一覧 ③



名草山　ふもとの浜の　夕波も
声打ち添ふる　入相の鐘
（紀三井寺の晩鐘が鳴る、
それに従う様に麓の浜の
夕波の音が聞えてくることよ）

2-3　玉津島神社　奉納和歌「吹上八景手鑑」名草山晩鐘（冷泉為村筆）

2-4　塩竈神社近景　鏡山と不老橋

2-1　塩竈神社　輿の窟

3-1　紀州東照宮

3-1　紀州東照宮　拝殿正面

3-2　和歌祭仮面群　面掛行列所用品（東照宮所蔵）

3-2　和歌祭（面掛行列）

（様式３－２）

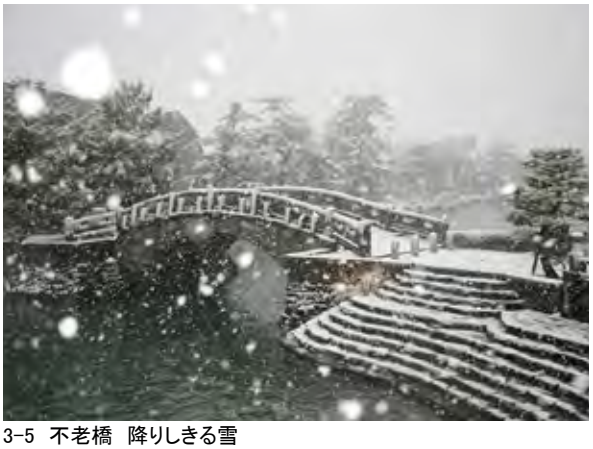
構成文化財の写真一覧 ④

3-3　妹背山　海禅院多宝塔

3-3　妹背山夕景　干潟と観海閣

3-4　妹背山　霧の三断橋

3-4　鳥と干潟と三断橋



3-5　不老橋　降りしきる雪

3-7　琴ノ浦温山荘

3-6　養翠園　潮入りの池と高津子山

3-6　養翠園　茶室「養翠亭」

構成文化財の写真一覧 ⑤

3-8 和歌山城 天守閣

3-8 和歌山城 西之丸庭園（紅葉渓庭園）と御橋廊下

3-9 長保寺 本堂と多宝塔

3-10 和歌山藩主徳川家墓所 初代徳川頼宣の墓

4-2 藤白神社

4-2 藤白の獅子舞

4-3 地蔵峰寺 本堂

4-3 地蔵峰寺 石造地蔵菩薩坐像

構成文化財の写真一覧 ⑥

4-1　熊野参詣道紀伊路（藤白坂）

4-4　黒江の町並み

4-5　護国院（紀三井寺）　楼門

4-5　護国院（紀三井寺）　多宝塔

4-6　鷹の巣

4-7　雑賀崎の町並みと漁火

4-9　和歌浦天満神社（天満宮）　御手洗池と天神山

4-9　和歌浦天満神社（天満宮）　石段と楼門

（様式３－２）

構成文化財の写真一覧 ⑦

4-8　水軒堤防（古写真）

4-8　水軒堤防と西浜遠景

4-8　水軒堤防（堤防の石積み）

4-10　明光通りの町並み

（様式４）

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
４６	絶景の宝庫　和歌の浦

（１）将来像（ビジョン）

和歌山県では令和５年の「弘法大師空海御誕生 1250 年」、令和６年の「世界遺産登録 20 周年」、令和７年の「大阪・関西万博」といった観光産業にとって追い風となるビッグイベントが目白押しであることから、この期間を「ダイヤモンドイヤー」として位置づけ、コロナ禍からの反転攻勢を目指している。

特に、和歌山県の観光資源としては、歴史・文化資源が豊富であることから、県観光振興アクションプログラム２０２３において、「日本遺産」「わかやま歴史物語」を重点施策として位置づけ、上記期間中、和歌山県が日本の精神・文化の源流であることをテーマにプロモーションに取り組んでいく予定であり、その中で日本の精神・文化を代表する日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」は強力なコンテンツとなると考えている。

加えて、万博に向けては、国内外から２８２０万人が万博会場のある関西エリアに来訪する見込みであり、インバウンドを含め、日本遺産「和歌の浦」の魅力を全世界に向けて発信できるよう、海外旅行会社や海外メディアへのプロモーションもあわせて展開していきたい。

また、和歌の浦エリアでは、宿泊施設でコワーキングスペースが整備されるとともに、民間企業と和歌山市がモデル実証事業を実施するなど、ワーケーションの受入に向けた取組も進められているところであり、こうした取組とも連動することにより、ワーケーションや企業研修の誘致など新たな交流市場の開拓による誘客の多角化も図っていく。

このような国内外からの観光客や新たな交流市場の開拓による来訪者の増加を見据え、エリア内の民間事業者等においても、受入施設の改修や体験プログラムの造成・販売体制の整備が進んでいるところであり、こういった民間事業者の取組とも連携した事業展開により、観光客や来訪者が安全で快適に滞在し、地域の人々と交流し、様々な体験を行うことができるよう受入体制を更に充実させていくことで、観光が産業化し、域外から稼ぐ力が強化され、地域が自立的に魅力を高めるための活動が継続していく体制を構築する。

これまでも地域住民はこの地域に深い愛着を持って暮らしてきたところであり、昨年には、地域住民が主体となって和歌祭４００周年イベントが盛大に行われたところであるが、引き続き、セミナーやシンポジウムを通じた普及・啓発や、教育旅行の誘致による次世代への文化理解の促進、和歌山大学との連携による中長期的な人材育成に取組むとともに、地域住民が主体となって実施する「和歌祭」や「聖武天皇１３００年記念イベント」等と連携することにより、地域をあげて日本遺産「和歌の浦」への愛着を高めつつ、おもてなしの心遣いを涵養することにより、さらなる交流人口の増加、地域の貴重な文化資産の保存・次世代への承継といった好循環サイクルの確立を目指す。

【県文化施策における日本遺産の位置づけ】

第三期 和歌山県文化芸術振興基本計画（令和３年４月）では、「文化資源の保全と活用による地域づくり」の中で、「日本遺産」のストーリーを活かした地域活性化の推進」を掲げ、和歌山県の日本遺産のストーリーを活用し、地域の活性化や観光振興を図り、あわせて、日本遺産の認知度向上に努めるとともに、構成する文化財の整備を進めることとしている。

【市施策における日本遺産の位置づけ】

和歌山市では、「第２期和歌山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和２年３月）」の中で「住みたいと選ばれる魅力があふれるまち」を基本目標の１つに掲げており、和歌の浦において、歴史文化の保全、眺望スポットや散策路の整備や、点在する歴史的建造物の回遊性向上、伝統文化行事やイベントの実施などにより、和歌の浦の特徴である歴史・文化を生かした地域の活性化を図ることを目標としている。

海南市では、「第２期海南市人口ビジョン・海南市総合戦略（令和２年３月）」の中で、「海南市への新しいひとの流れをつくる」を基本目標の１つに掲げており、日本遺産に認定された観光資源などの地域資源を活かしたイベントを開催し、交流人口の増加を図ることを目標としている。

また、鈴木姓のルーツとされる「鈴木屋敷」を再生・復元し、「鈴木」さんの聖地づくりを行い、全国の鈴木姓の人と本市と継続的なつながりを持つ機会を提供する取組を実施することで、交流人口・関係人口の増加を図ることとされている。

「鈴木屋敷」については、令和５年３月に復元が完成し４月より一般公開される予定であり、新たな誘客を図る観光拠点としての役割が期待されている。

（２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－Ａ：万葉館の入館者数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
数値	5,615	7,528	13,305 （2 月末現在）	18,500	19,500	19,900
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	和歌や万葉集等の日本文化を資料展示や万葉シアターで普及啓発するための施設である「万葉館」の入館者数を指標に設定。2023 年度は、マスク着用緩和等により、人流が徐々に回復すると想定し、コロナ禍前の 2019 年度の入館者数（19,459 人）に対して 95%の設定とした。2024 年度はコロナ禍前の水準に設定。その後は毎年、対前年度比で 2%の伸び率を設定					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－Ｂ： うるわし館漆器蒔絵体験者数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
数値	1,280	1,628	2,398 （2 月末現在）	2,900	3,100	3,200
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2023 年度は、マスク着用緩和等により、人流が徐々に回復すると想定し、コロナ禍前の 2019 年度の体験者数（3,034 人）に対して 95%の設定とした。2024 年度はコロナ禍前の水準に設定。その後は毎年、対前年度比で 2%の伸び率を設定					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－Ａ：和歌山市の市政世論調査「観光地としての魅力（市民の郷土（文化財等）への愛着）」の割合（単位：%）						
年度	実績			目標		
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
数値	28.9	23.8	集計中	24.4	24.9	25.4
目標値の設定の考え方及び把握方法	2023 年度は、過去 5 年（2017～2021）の平均値（24.4%）の設定とし、その後も毎年 0.5%増加を設定					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－Ａ：紀州語り部の案内人数（和歌山市語り部クラブ・海南市語り部の会） （単位：人）						
年度	実績			目標		
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
数値	6,903	7,690	9,259 （2 月末現在）	10,200	10,700	11,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	2023 年度は、マスク着用緩和等により、人流が徐々に回復すると想定し、コロナ禍前の 2019 年度の案内人数（10,677 人）に対して 95%の設定とした。2024 年度はコロナ禍前の水準に設定。その後は毎年、対前年度比で 2%の伸び率を設定					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－Ａ：構成文化財等の整備及び整備予定件数（単位：件）						
年度	実績			目標		
	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
数値	７	７	８	８	８	８
目標値の設定の考え方及び把握方法	持続的な保存活用を図るため、構成文化財所有者等が実施する国庫補助事業を活用した整備及び整備予定件数（累積）を設定					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－Ａ：和歌山市・海南市の観光客入込み数（単位：人）						
年度	実績			目標		
	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
数値	5,197,888	5,423,908	集計中	7,970,000	8,389,000	8,557,000
目標値の設定の考え方及び把握方法	2023 年は、マスク着用緩和等により、人流が徐々に回復すると想定し、コロナ禍前の過去最高の数字を記録した 2019 年の観光入込客数（8,388,582）に対して 95%の設定とし、その後、毎年、対前年比で 2%の伸び率の達成を設定 和歌山県観光客動態調査により把握（暦年）					

（３）地域活性化のための取組の概要

【現状と課題】

認定以来、シンポジウムやフォトコンテストの開催による普及・啓発、看板整備やガイドの養成などの受入環境整備、ガイドブックやメディアを通じたプロモーションに取り組んできた結果、当エリアを訪れる来訪者は順調に増加してきたところであるが、コロナ禍により大きなダメージを受けたところ。そのような中、体験プログラムの造成・販売体制の構築やワーケーションなど新たな交流市場の開拓に向けた取組、これまで取り込めていなかったインバウンド誘客など、国内外からの誘客の多角化・地域の消費拡大といったコロナ禍からの反転攻勢に向けた幅広い事業展開が求められている。

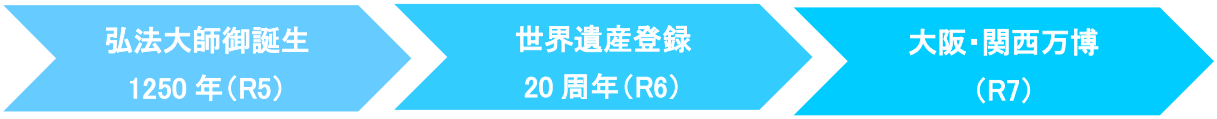
また、祭りやイベントについても、開催中止や規模を縮小して催行するといった事態が生じていたが、令和４年度においては、紀州東照宮の例大祭「和歌祭」が、創始 400 年を記念した「和歌祭四百年式年大祭」として例年より規模を拡大して開催されて約５万人が来場したことをはじめ、和歌の浦の風光明媚な景色の中をジャズの生演奏の軽快なリズムに乗って駆け抜ける「和歌山ジャズマラソン」が３年ぶりに現地開催されて約６千人が参加するなど、盛り上がりを見せている。

また、最近では、断崖に家々が密集して並ぶ漁師町である雑賀崎の風景が「日本のアマルフィ」としてテレビ番組で紹介されたり、映画のロケ地となるなど、メディアでの露出も増えてきている。

【取組の概要】

和歌山県では令和５年から令和７年の３年間を「ダイヤモンドイヤー」と位置づけ、県観光振興アクションプログラム２０２３において、「日本遺産」「わかやま歴史物語」を期間中の重点テーマの一つとして、各種プロモーションを展開していく計画であることから、協議会としても県や構成団体、民間事業者等と連携し、国内外からの誘客の多角化・地域の消費拡大といったコロナ禍からの反転攻勢に向けた事業展開を図っていく。

＜ダイヤモンドイヤー＞



① 誘客プロモーション

これまでも、「わかやま歴史物語」として、県内の１００ストーリーを体系的に紹介、スタンプラリー等の周遊促進を図ってきたところであり、その中で日本遺産に関わるストーリーを盛り込むことで、広く歴史ファンに訴求してきたところ。

ダイヤモンドイヤーでは、和歌山県が日本の精神・文化の源流であることをテーマにプロモーションに取り組んでいく予定であり、令和６年は、また聖武天皇の和歌の浦行幸１３００年という記念の年でもあることから、記念イベントとも連携し日本遺産「絶景の宝庫　和歌の浦」の更なる魅力発信に取り組む。加えて、令和７年の大阪・関西万博では、国内外から２８２０万人が関西エリアに来訪する見込みであり、インバウンドを含め、日本遺産「和歌の浦」の魅力を全世界に向けて発信できるよう、海外旅行会社や海外メディ

アへのプロモーションもあわせて展開していく。
　また、エリア内を熊野古道「紀伊路」が通っており、近年欧米豪の観光客を中心に、ロングトレイルといった観光スタイルへの関心が高まってきていることから、世界遺産「熊野古道」や日本遺産「葛城修験」といった日本を代表する歴史的・文化的な道を組み合わせることで、ストーリー性をもった長期滞在型の広域周遊ルートとして受入体制の整備や一体的なプロモーションを実施することにより、トレッキングによる環境に優しい観光スタイルの普及・促進や、国内外から来訪者に、長期滞在しながら県内各地を巡ってもらい、地域の消費拡大につなげる広域周遊ルートによる誘客にも取り組む。

② 新たな交流市場の開拓
　令和４年度観光庁「ワーケーション推進事業」として、民間企業と和歌山市が、シーカヤックやＳＵＰ、トレイルランニングなどアウトドアフィットネスとワーケーションを組み合わせたスポーツワーケーションのモデル実証事業を実施するなど、ワーケーションの受入に向けた取組も展開されている。現在、エリア内の民間事業者等において、受入施設の改修や体験プログラムの造成・販売体制の構築が進められているところであり、当協議会としても、こうした取組と連動することにより、「絶景の宝庫　和歌の浦」の美しいロケーションを活かしたワーケーションや企業研修の誘致など新たな交流市場の開拓による誘客の多角化も図っていく。

③ 人材育成・受入環境の整備
　これまでの取組の中で、観光客の受入に向けた紀州語り部（ガイド）の育成を進めてきたところであり、現在、ガイド団体が組織され、和歌山市観光協会や海南市が窓口となり、ガイド手配ができる体制となっている。旅行会社へのプロモーション活動により、当エリアを行程に組み入れたツアー造成も進んでおり、ガイドの年間案内人数はコロナ禍前には１万人を超えたところである。情報発信拠点としては、既存の万葉館にくわえ、本年４月に新たに鈴木屋敷がオープン予定であり、ガイド団体との連携により更なる受入体制の充実を図っていく。引き続き、ガイドの育成や関係部局と連携した受入施設の整備を進めていくとともに、和歌山大学との連携による中長期的な人材育成にも取り組んでいく。

④ 文化資源の保存・継承に向けた取組
　昨年、地域住民が主体となって和歌祭四百年式年大祭と関連イベントが実施され、大いに盛り上がったところであるが、令和６年の聖武天皇行幸１３００年に向けた記念イベントの実施も検討されているところ。今後、当該イベントと連携した普及・啓発活動の展開によるシビックプライドの醸成や、教育旅行の誘致による次世代への文化理解の促進に取り組んでいく。
　また、名勝和歌の浦（奠供山地区他４地区）整備基本計画によるエリア内の構成文化財や受入施設、サイン整備なども、関係部局により計画的に実施される予定である。

（４）実施体制

和歌山県（観光振興課）に協議会の事務局を設置し、関係団体等の意見も反映した多面的な事業展開を図るため、行政（県・市町の観光・商工部局、教育委員会）だけではなく、観光協会等観光関連団体や商工団体、文化団体の参画のもと、それぞれの組織が連携して効果的に事業を実施する。

和歌の浦日本遺産活用推進協議会

行政	観光関連団体
・和歌山県商工観光労働部 ・和歌山県教育庁 ・和歌山市 ・海南市 ・海南市教育委員会	・(公社) 和歌山県観光連盟 ※ＤＭＯ ・(一社) 和歌山市観光協会 ※ＤＭＯ ・和歌の浦観光協会 ・(一社) 海南市観光協会
商工団体	**文化団体**
・和歌山商工会議所 ・海南商工会議所	・(一社) 和歌山県文化振興財団

【構成団体】

県・市（観光担当部局）	誘客プロモーションや受入体制整備など総合的な観光施策の展開
同　（文化担当部局）	文化面での普及・促進や文化財等の保全など総合的な文化施策の展開
観光関連団体･商工団体	モニターツアーの実施や体験プログラムの造成など連携事業の実施
県文化振興財団	万葉館を拠点とした情報発信、市民講座やセミナー開催による普及・啓発

【連携団体】

和歌山大学	共催講座の実施や専門職大学院大学と連携した中長期的な人材の育成・確保
旅行会社	コンテンツの磨き上げやツアー造成、会員向け歴史講座の開催など
体験事業者	うるわし館での漆器づくり体験をはじめ、各種体験プログラム、アウトドアフィットネスの商品化・受入体制の構築など
各種実行委員会	和歌祭や聖武天皇玉津島行幸 1300 年記念イベントの実施など

［人材育成・確保の方針］

日本遺産の魅力発信及びおもてなし力の向上を図るため、ガイド人材の育成やスキルアップに向けた研修、体験事業者・地域住民向けセミナー等を引き続き実施していく。

また、本年４月、全国初となる観光学の専門職大学院大学「和歌山大学大学院観光学研究科　観光地域マネジメント専攻（専門職大学院）」が新たに開設され、地域のＤＭＯ等と連携した地域課題の解決に向けた実践的カリキュラムが行われる予定である。

その一環として、協議会の構成団体である県観光連盟や和歌山市観光協会において、学生の受入が予定されていることから、このような取組と連携し、日本遺産「絶景の宝庫　和歌の浦」をテーマとした課題研究など中長期的な人材の育成・確保にも取り組んでいく。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走
和歌の浦エリアにおいては、下記のとおり構成団体や民間事業者が主体となり、地域内外の人々がストーリーを体験できる事業が実施されている。協議会としても引き続き、各主催者等と連携し、ガイドブックや特設ウェブサイトを通じて広く情報発信を行い、誘客を図っていく。 〇紀州語り部 これまでの取組の中で、観光客の受入に向けた紀州語り部（ガイド）の育成を進めてきたところであり、現在、ガイド団体が組織され、和歌山市観光協会や海南市が窓口となり、ガイド手配ができる体制となっている。旅行会社へのプロモーション活動により、当エリアを行程に組み入れたツアー造成も進んでおり、ガイドの年間案内人数はコロナ禍前には１万人を超えたところである。 〇体験プログラムの事業化 構成団体（県・市）が、体験プログラムの魅力発信やオンライン予約ができるポータルサイトを開設し、体験事業者や観光関係団体を対象としたセミナーやワークショップを開催するなど、体験プログラムの事業化支援を行っている。 また、「絶景の宝庫　和歌の浦」の美しいロケーションを活かしたアウトドアフィットネスとワーケーション・企業研修を組み合わせた誘客の取組も進められており、現在、エリア内の民間事業者等において、受入施設の改修や体験プログラムの造成・販売体制の構築が進められている。 〇受入施設における取組 情報発信拠点としては、「万葉館」において、有料の市民講座・セミナーが年間を通じて定期的に開催されているほか、黒江地区の「うるわし館」では、地域の伝統工芸である漆器づくり体験が提供され、国内外からの教育旅行や団体ツアー等で人気の体験プログラムとなっている。 また、本年４月には、新たに鈴木屋敷がオープン予定であり、海南市語り部の会が「藤白神社」や「熊野古道　紀伊路」を活用したガイドツアーの受入を開始する予定である。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組
構成文化財に関しては、社寺・史跡等については、適切に保存がなされているので、引き続き適切な保存に努める。また、名勝和歌の浦（奠供山地区他４地区）整備基本計画によるエリア内の構成文化財や受入施設、サイン整備なども、関係部局により計画的に実施される予定である。 一方、祭りや伝統芸能については、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催を延期・中止に追い込まれたり、神事のみに縮小して催行するという事態が生じていたが、紀州東照宮の例大祭「和歌祭」については、令和４年に創始４００年を記念し、「和歌祭四百年式年大祭」として３年ぶりに開催され、約５万人が来場するなど、以前の活気が取り戻されつつある。今後、令和６年の聖武天皇行幸１３００年に向けた記念イベントの実施も検討されているところであり、当該イベントと連携した普及・啓発活動の展開によるシビックプライドの醸成や、教育旅行の誘致による次世代への文化理解の促進に取り組んでいく。 活用面では、和歌山市語り部クラブが「玉津島神社」や「紀州東照宮」を組み入れたガイドツアーを実施しているほか、本年４月に新たにオープンする鈴木屋敷では、海南市語り部の会が「藤白神社」や「熊野古道　紀伊路」を活用したガイドツアーの受入を開始する予定である。 引き続き、新たなガイドの養成やガイド団体との連携による構成文化財を活用したガイドツアーの造成・受入体制の充実を図っていくとともに、関係部局と連携した受入施設の整備や和歌山大学との連携による中長期的な人材育成にも取り組んでいく。

（７）地域活性化のために行う事業

（７）－１　組織整備

（事業番号１－Ａ）

事業名	協議会の組織整備
概要	協議会の体制を強化するため、各自治体関係者以外に観光関係者や民間事業者を加え、市民団体や大学等の関連団体との連携強化を図る

	取組名	取組内容	実施主体
①	事業全体の統括を行う組織の整備	協議会の計画の円滑な実施のため、紀伊万葉ネットワークや和歌山大学等を協議会の構成団体等に加えるなど地元の関連団体との連携を強化する	協議会
②	地元の関係団体との連携	日本遺産の認知度向上や和歌の浦地域への誘客促進のため、協議会構成団体以外の関連団体との意見交換や当該団体が主催するイベントへの出展、相互の情報発信等を行い、一層連携を強化する（例：和歌祭実行委員会、和歌山ジャズマラソン実行委員会、語り部団体等）	協議会
③			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	組織体制への行政組織以外の参画者数	7 団体
2021		7 団体
2022		7 団体
2023	組織体制への行政組織以外の参画者数	8 団体
2024	組織体制への行政組織以外の参画者数	9 団体
2025	組織体制への行政組織以外の参画者数	10 団体

事業費	2023 年度：―　2024 年度：―　2025 年度：―
継続に向けた事業設計	―

（７）－２　戦略立案

（事業番号２－Ａ）

事業名	ＰＤＣＡサイクルをまわす仕組みの整備
概要	事業の進捗状況や効果把握のため、定期的な会議等を設定する

	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会総会、幹事会等の開催	各事業の進捗状況や効果把握のため、年１回の総会を設定し、年間事業計画の策定を行うとともに、年１回の幹事会を設定し、各事業の進捗状況や効果把握を行い、事業の円滑な推進を目指す。また、必要に応じて、語り部団体等の協議会構成団体以外の関係機関との意見交換会等を適宜開催	協議会
②	事業の進捗状況・効果把握	協議会総会を年１回以上開催し、前年度の事業報告・収支決算、当該年度の事業計画・収支予算について報告を行う。総会の場では、ビジョンに基づく効果的な事業内容であること、また、効果的に事業展開を図れるかどうかについて検討	協議会
③	事業計画の立案・進捗管理	ビジョンに基づき、長期・短期の事業計画を協議会幹事会で立案し、総会に諮る。 年度途中においては、協議会・構成団体等が実施する事業について、関係機関と情報交換・共有を図り、より効果的な事業展開を行い、成果が導き出せるよう適宜、意見交換会等を開催	協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	総会、幹事会等の開催数	総会１回、幹事会１回
2021		総会１回、幹事会１回
2022		総会１回、幹事会１回、意見交換会等５回
2023	総会、幹事会等の開催数	総会１回、幹事会１回 意見交換会等５回
2024	総会、幹事会等の開催数	総会１回、幹事会１回 意見交換会等６回
2025	総会、幹事会等の開催数	総会１回、幹事会１回 意見交換会等６回

事業費	2023 年度：―　2024 年度：―　2025 年度：―
継続に向けた事業設計	―

（７）－３　人材育成

（事業番号３－Ａ）

事業名	日本遺産を活用する人材の育成
概要	日本遺産を活用する人材育成のため、すでに地域で活躍している人材を中心に日本遺産ガイド研修等の教育を実施する

	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイド研修（座学・現地研修等）の実施	すでに活動をしている語り部を中心に、日本遺産ガイドとしても活動できるよう研修等の教育を実施 講師を招き日本遺産ガイドに必要な基礎知識やスキルアップ術を学ぶ。また、日本遺産関連スポット等を巡るウォークルートでの現地実習やグループワークを通じ、参加者目線でのガイド術や行程管理等について議論し、他のガイド等との情報の共有を図る	協議会
②	紀州語り部担い手講演会の開催	地域の歴史や文化、自然を伝えながら、観光ガイドを行う「紀州語り部」の担い手養成のため、講演会を開催。日本遺産エリアで活動ができる語り部人材の確保を図る	県観光連盟
③			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	紀州語り部（和歌山市・海南市４団体）の登録者数	53 人
2021		75 人
2022		81 人（2 月末現在）
2023	紀州語り部（同上）の登録者数	87 人
2024	紀州語り部（同上）の登録者数	93 人
2025	紀州語り部（同上）の登録者数	100 人

事業費	2023 年度：300 千円　2024 年度：300 千円　2025 年度：300 千円
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施

（７）－４　整備

（事業番号４－Ａ）

事業名	地域を訪れる観光客の受け入れ体制整備
概要	地域内外の人々に日本遺産ストーリーを体験してもらうために、受け入れ体制整備を実施する

	取組名	取組内容	実施主体
①	説明板、案内板の整備	各拠点に整備している説明板、案内板について情報の更新や多言語対応を含め再整備が必要なものについては、再整備を図る。また整備が必要な箇所等については、関係者と調整のうえ、整備を行い、受入環境整備を行う	協議会
②	観海閣の復元的整備	観海閣については、名勝和歌の浦を構成する重要な歴史的要素であり、視点場、視対象としての機能も果たしていることから、木造による復元的整備を実施	県
③	和歌の浦ガイダンス施設整備	玉津島神社の南に隣接する旧福島嘉六郎邸を利用し、和歌山市歴史的風致維持向上計画での「重点区域」における歴史的風致や日本遺産について情報発信するための「和歌の浦ガイダンス施設」を整備	和歌山市
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	構成文化財等の整備件数	７件
2021		７件
2022		８件
2023	構成文化財等の整備予定件数	８件
2024	構成文化財等の整備予定件数	８件
2025	構成文化財等の整備予定件数	８件

事業費	2023 年度：1,000 千円　2024 年度：1,000 千円　2025 年度：1,000 千円
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施

（７）－５　観光事業化

（事業番号５－Ａ）

事業名	日本遺産ストーリー体験事業
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらう事業を実施し、エリア内での消費拡大や経済効果を生み出す

	取組名	取組内容	実施主体
①	テーマ別講座と現地ツアーをセットにした商品の造成	旅行会社等と連携し、和歌の浦の歴史に関するテーマ別講座と語り部が同行する現地ツアーをセットにした商品を造成	協議会
②	スタンプラリー等の周遊企画の実施	構成文化財を広域的に巡り、ストーリーに触れるとともに土産物店や飲食店での消費拡大につながる企画として、スタンプラリー等の取組を実施	協議会
③	既存コンテンツとの連携	ＳＵＰ、シーカヤック、ヨガ等の体験事業者と連携し、体験に併せて構成文化財や情報発信拠点でストーリーに触れる機会を設け、理解を深める取組を実施	体験事業者 協議会
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	紀州語り部(和歌山市語り部クラブ･海南市語り部の会)の案内人数	6,903 人
2021		7,690 人
2022		9,305 人（2 月末現在）
2023	紀州語り部(同上)の案内人数	10,200 人
2024	紀州語り部(同上)の案内人数	10,700 人
2025	紀州語り部(同上)の案内人数	11,000 人

事業費	2023 年度：1,000 千円　2024 年度：1,000 千円　2025 年度：1,000 千円
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施

（７）－６　普及啓発

（事業番号６－Ａ）

事業名	地域住民への普及啓発
概要	地域住民が日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるよう、国内外からの来訪者と地域住民が交流するイベントを開催する

	取組名	取組内容	実施主体
①	地域住民向けセミナーの開催	地域住民の日本遺産に関する認知度向上及び案内力強化のため、地域住民向けのセミナー等を開催する	協議会
②	フォトコンテスト及び写真展等の実施	構成エリア及び周辺地域の魅力を広く発信するために、Instagram を活用したフォトコンテストを実施。また、フォトコンテストの実施に併せて写真展等を開催する	協議会
③	情報発信拠点の活用	2018 年度に整備した情報発信拠点（和歌の浦アート・キューブ、和歌山市南コミュニティセンター）において、地域の内外ストーリー及び構成文化財を中心とした写真展示等をし、気軽にストーリーに触れやすい体制を図る	協議会
④			
⑤			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	情報発信拠点（和歌の浦アート・キューブ）の来場者数	14,876 人
2021		19,292 人
2022		24,336 人（2 月末現在）
2023	情報発信拠点（同上）の来場者数	26,600 人
2024	情報発信拠点（同上）の来場者数	28,000 人
2025	情報発信拠点（同上）の来場者数	28,600 人

事業費	2023 年度：600 千円　2024 年度：600 千円　2025 年度：600 千円
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施

（７）－７　情報編集・発信

（事業番号７－Ａ）

事業名	ＨＰ等における情報発信
概要	日本遺産のストーリーに関する基本情報や、エリアのイベント情報をＨＰ等において情報発信する

	取組名	取組内容	実施主体
①	新たなモデルルートの構築及び発信	新たな観光資源・体験・飲食店を付加したモデルルートを再構築するとともに、徒歩やサイクリングで構成文化財や関連施設を巡るルートを整備し、ガイドブック等で発信する	協議会
②	モデルルートの発信	県、観光連盟が持っている媒体・HP 等で既存の事業に関連付け、モデルルートや構成資産を紹介することで、様々な利用者に対し訴求できるようにする。インバウンドにも合わせて訴求	県、市 観光連盟
③	ガイドブックの更新	ガイドブックに掲載している構成文化財や観光地、宿泊施設の情報を更新し、データ版としてウェブサイトに掲載する	協議会
④	日本遺産関連イベントのブース出展	文化庁主催の「日本遺産フェスティバル」、「日本遺産の日イベント」や紀州東照宮の例大祭である和歌祭、和歌の浦を舞台とする「和歌山ジャズマラソン」等のイベント開催時にブース出展をし、日本遺産の PR を実施する	協議会
⑤	六義園（東京都）での PR 活動	和歌の聖地である和歌浦を模して作られた雅な大名庭園である「六義園」においてパネル展示等を行うことで、首都圏におけるＰＲにつなげる	

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	ウェブサイトのページビュー数	160,651ｐｖ
2021		205,101ｐｖ
2022		集計中
2023	ウェブサイトのページビュー数	206,000ｐｖ
2024	ウェブサイトのページビュー数	207,000ｐｖ
2025	ウェブサイトのページビュー数	208,000ｐｖ

事業費	2023 年度：10 千円　2024 年度：10 千円　2025 年度：10 千円
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施